

令和4年度 盛岡市出資等法人 経営評価シート

1 法人の概要

法人名	たまやま振興株式会社	所管課	産業振興課
所在地	〒028 - 4134 盛岡市下田字生出893番地11		
電話番号	(019) 683 - 3215	設立年月日	平成9年9月5日
代表者	熊谷 俊彦 <input type="checkbox"/> 常勤 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤	<input type="checkbox"/> 市OB <input checked="" type="checkbox"/> 市現職 <input type="checkbox"/> その他	
設立目的	農村資源を活用した都市との交流を推進し、地域の活性化を図ると共に市民の保養と憩いの場として心身の健全化に向けて、利用推進を図る。		
主要事業	① 宿泊事業 ⑤ 産直売店事業 ② クアハウス(温泉入浴)事業 ⑥ 地場産品・特産物の開発 ③ 食工房事業 ④ 郷土食販売事業		

具体的な取組目標

成果指標名		単位		令和1年度	令和2年度	令和3年度
①	売上目標	千円	計画	123,500	99,272	108,900
			実績	123,201	82,309	92,704
②	売上費用	千円	計画	135,780	117,368	109,763
			実績	143,710	110,793	125,392
③	営業利益	千円	計画	-12,280	-37,571	-20,203
			実績	-20,509	-41,334	-47,212
④	営業外	千円	計画			
			実績	29,992	10,031	49,546

- ※ 1 中長期計画等を策定している場合、計画に盛り込まれている目標等を記載してください。
 2 中長期計画等を策定していない法人で、毎年度の目標等を設定している場合は、その目標等を記載してください。
 3 毎年度の目標等を設定していない場合は、法人の活動が具体的に数値として表れるものを記載してください。

2 法人の経営内容の詳細

(1) 目的適合性(公益性)

項目	番号	質問	チェック欄	
			はい	いいえ
1 設立目的	1	法人は、設立目的に沿った活動を行っている。	○	
	2	全ての事業内容が、設立目的または趣旨にしたがって展開されている。	○	
	3	現在の社会経済情勢の下でも、法人の設立目的や事業には公益性が認められる。	○	
	4	法人を取り巻く社会経済状況は、設立当初から大きな変化はない。		○
2 代替性	5	民間等(株式会社の場合、他の事業者等)において、代替が可能な類似の事業が行われていない。		○
	6	現在の事業量は、最大時の事業量と比べて著しく減少していない。	○	
	7	法人が事業を廃止すると、事業の実施する事業者がまったくなくなり、市民が不利益を被る。		○
3 市の施策推進における役割	8	法人の活動は、関連する市の政策、施策に結びついている。	○	
	9	盛岡市総合計画やその他の部門別計画において、法人の役割が規定されている。	○	
	10	盛岡市総合計画やその他の部門別計画において、法人が実施する事業の施策上の役割、方向が規定されている。	○	
合計			7	3

・評価コメント

目的適合性(公益性)について総括的に評価し、課題が生じている場合、その解決のためにどのような方策を講じるかについて記載してください。また、法人に対する所管課としての評価及び関与のあり方について記載してください。

出資法人	<p>[現状と課題]</p> <p>当法人が指定管理者となり運営している盛岡市総合交流ターミナルは、農業資源を活用した都市との交流促進を図るため、平成10年に開館した施設でこの施設の維持管理運営を行うため旧玉山村が中心となり設立されたものであり、農業振興の他、玉山地域唯一の温泉保養施設として、地域住民の憩いの場、交流の場、保養の場として地域住民の福祉向上に寄与している。施設の管理運営は、温泉入浴施設のクアハウス、農産物の展示販売する産地直売コーナー、地産地消を推進する郷土食のコーナーや宴席の提供、宿泊施設の運営、食工房の運営などが主な内容となっている。</p>
	<p>[方 策]</p> <p>当施設の設置目的である都市との交流促進や市民の憩いの場、保養の場として多くの方々の来場を頂くことで健全経営に努めることが使命と認識しており、今後も公益性を堅持して参りたいと思っております。地域の食材、素材に拘るとともに、連携した方策を行うことでより、一層連携を強めていきたいと考えます</p>
所管課	<p>[評価及び関与のあり方]</p> <p>法人は、施設の建設目的を理解し、目的に向かって一貫して事業を展開してきており、この姿勢は評価できるものである。令和3年度も令和2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の流行に伴いイベントの中止が相次いだ。令和元年度までは、春の「唄と踊りの祭典」、夏の「ビール祭り」、秋の「ユートランド祭り」、冬の「雪あかり」等のイベントを積極的に企画・実施しており、地域のコミュニティ向上に資すると共に都市と農村の交流の場としての活用が充分に果たされていた。</p> <p>クアハウス部門については、令和2年度から引き続き、盛岡市民割を継続させ、盛岡市民が利用する際の利便性を確保している。</p> <p>産直部門については、出展者のオープン化に取り掛かり、6人の新規出店者の応募があったところであり、地元生産者の販路の提供に資する場となっている。</p> <p>今後は、空き室となっている食工房の活用方法の検討や、アグリイノベーション事業との連携を継続し、地域の魅力を対外的に発信し、利用者の増加につながるよう指導してまいりたい。なお、このような農村資源を活用した総合的な取組を本格的に実施することにより、会社の存在価値や希少価値が一層高まるものと認識している。</p>

(2) 計画性

項目	番号	質問	チェック欄	
			はい	いいえ
1 経営基本方針	1	経営基本方針を策定している。	○	
	2	経営基本方針の内容は、簡潔明瞭である。	○	
	3	経営基本方針には、法人の存在理由が規定されている。	○	
	4	経営基本方針について、経営陣が全ての役職員に周知している。	○	
	5	経営基本方針は、全ての役職員に浸透している。	○	
	6	全ての役職員が、経営基本方針に従った行動をとっている。	○	
2 中長期経営計画	7	具体的な指標に基づく中長期経営計画を策定している。	○	
	8	中長期経営計画と実績についての分析は、半期以内のサイクルで行っている	○	
	9	中長期経営計画と実績についての分析結果を経営陣に報告し、分析結果に基づき業務改善を議論する仕組みがある。	○	
	10	中長期経営計画と実績についての分析結果を中長期計画の見直しに反映させている。		○
	11	中長期経営計画と実績についての分析結果に基づき、計画を達成するための具体的な業務の改善策を実施している。	○	
3 年次事業計画	12	年次ごとの事業計画を策定している。	○	
	13	年次事業計画と実績について分析し、分析結果を次年度以降の事業計画や中長期経営計画に適切に反映させる仕組みとなっている。	○	
	14	年次事業計画と実績についての分析は、半期以内のサイクルで行っている。	○	
	15	年次事業計画と実績についての分析結果を経営陣に報告し、議論する仕組みがある。	○	
	16	年次事業計画と実績についての分析結果に基づき、具体的な業務の改善策を実施している。	○	
4 経営環境の把握	17	法人の経営資源の長所、短所を把握し、法人の活動に反映させている。	○	
	18	外部経営環境(事業に関わる社会経済の動向・法令等の動きなど)を把握している。	○	
合計			17	1

・評価コメント

計画性について総括的に評価し、課題が生じている場合、その解決のためにどのような方策を講じるかについて記載してください。また、法人に対する所管課としての関与のあり方について記載してください。

出資法人	<p>[現状と課題]</p> <p>以前作成された改善計画はコロナ禍以前のものであることから、令和2年度10月新たに経営改革プランを作成経営理念を共有し、大きな目標として将来に渡り、持続可能な経営体の確立と自立した経営への転換を図るべく集客と売上拡大に向けた基本戦略を作成。しかしながら、長引くコロナ禍による利用者増の伸び悩み、又、感染症対策による席数、1室あたりの利用人数減などキャパシティの減少による売上減は大きな改善が望めないと考えられる。</p> <p>[方策]</p> <p>長いスパンだけのものではなく、その年度年度に合わせたもの取り入れ改善していく事が大事であると思われしますので、1年毎に改善策の吟味をして参りたいと思います。又売上減少に伴う資金繰りの悪化は日本政策金融公庫より実質無利子、無担保での借入を行い資金を確保し、運営に支障をきたさないよう施策をしております</p>
所管課	<p>[評価及び関与のあり方]</p> <p>令和2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の流行に伴う売上減もあり、赤字経営が継続されている。赤字経営への対応策の一つでもあったより短いスパンでの貸借対照表の状況把握・管理は、経営陣により対応されるところとなったため、今後も継続するよう指導して参りたい。資金状況については、依然として厳しい現状となっており、令和3年度に日本政策金融公庫から経営資金として2,000万円融資を受けたところであり、今後も一層資金状況の管理には注意を払う必要がある。</p>

(3) 経営管理の仕組み

項目	番号	質問	チェック欄	
			はい	いいえ
1 組織管理	1	組織構造は経営環境の変化に応じて定期的に見直しされている。	○	
	2	組織を機能ごと、または事業ごとに分け、役割を明確にしている。	○	
	3	部門ごとの連携が円滑に行われる組織体制になっている。	○	
	4	異なる業務間の配置転換、権限委譲等により組織の活性化を図っている。	○	
2 コスト管理	5	事業別、業務別など、個別の事業内容に関するコスト分析を実施している。	○	
	6	コスト分析の結果が、経営計画や事業内容へ反映される仕組みとなっている。	○	
3 顧客満足度	7	定期的に顧客満足度調査を実施している。	○	
	8	顧客満足度調査の結果を分析し、分析結果を経営に適切に反映させる仕組みとなっている。	○	
	9	顧客満足度調査の結果を分析し、顧客のニーズを把握している。	○	
	10	顧客のニーズを分析し、その結果を踏まえて改善努力をしている。	○	
	11	中長期経営計画や年次事業計画に顧客のニーズを反映させている。	○	
4 職員の 人材育成・能力開発	12	業務に必要な知識を身につけるための職員研修や派遣を実施している。	○	
	13	研修等により、実際に職員の能力・技術が向上している。	○	
	14	職員が法人の活動に関わりのある資格を取得している。	○	
	15	職員が研修で得たノウハウを、他の職員も共有している。	○	
	16	必要に応じ、専門知識を有する外部の人材を活用(職員として採用、指導や助言を受ける、など)している。	○	
	17	人材育成や能力開発を中長期経営計画等に盛り込んでいる。	○	
	18	経営陣は、人材育成や能力開発に積極的に関与し、かつ自らも学習し取り組んでいる。	○	
5 業務執行体制	19	決裁などの日常業務の意思決定や事務分掌、現金管理等、業務上の必要な規定が適切に整備されている。	○	
	20	理事会、取締役会をはじめとした業務執行体制が関係法令等に基づき適切に整備され、実質的に機能を果たしている。	○	
	21	経営上重要な意思決定は、理事会(取締役会、株主総会)の決議により行っており、必要に応じて迅速に開催できる体制が整っている。	○	
	22	監査の指摘事項に対して、改善策を実施している。	○	
	23	財務状況は、年度途中で定期的(必要があれば随時)に経営陣に報告する仕組みがある。	○	
6 情報公開	24	法人の財務状況や事業成果を積極的に外部に公表している。	○	
合計			24	0

・評価コメント

経営管理の仕組みについてについて総括的に評価し、課題が生じている場合、その解決のためにどのような方策を講じるかについて記載してください。また、法人に対する所管課としての関与のあり方について記載してください。

出資法人	<p>[現状と課題]</p> <p>日々の売上管理表、月次の利益管理表、勘定科目残高一覧表、月別総売上高、月別の入場者数など、売上及び入場者数を昨年及びコロナ禍の前である2019年と対比させております。それを係長以上で毎週行う定例ミーティングで議題とし現状を把握。内容は議事録を作成し各部門に配布し現状と情報を共有しております。</p> <p>お客様満足度を高める為に実施しているアンケートは記入をして頂いたものを回覧し部門へのお言葉があった場合は現場へのフィードバックを行っております。更にお客様の要望に対しては、意見を出し合い直ぐ実行できるものは時間をかけずに実行するよう努めております。従業員の地元に着した親近感ある接客スキルを活かし、個々の力を発揮させていくことが売上増に繋がり、そして健全経営に繋がると考えられますので、より一層推進していきたいと考えております。コスト削減は改善できるもの無駄なものもこれからは吟味をしてみたいですが、一方でサービスの質、内容の低下に繋がらないようにして参りたいと考えております。</p>
所管課	<p>[評価及び関与のあり方]</p> <p>週単位で実施している定例ミーティングにて、経営状況に関する資料を係長以上で確認及び分析するようになったことから当該法人の経営管理に対する意識の変化が見られ、この点については評価できる。ラインの従業員と経営を直接動かす層が情報を共有する機会が増加するなど改善が見られた。このような取り組みは経営を直接動かす層が、現場の意見や動きについて深く理解することが個々の業務の改善の提案には不可欠のため、今後についても社員一丸となり経営に向き合っていけるよう指導していく。</p>

(4) 財務状況

項目番号	番号	質問	チェック欄	
			はい	いいえ
1 財務状況	1	債務超過になっていない。	○	
	2	自己資本が十分に確保されている。		○
	3	借入金に依存しない資金運用を行っている。		○
	4	市からの補助金の交付はない。または市に対する収入依存度は改善の傾向にある。		○
		令和2年度決算において単年度黒字である。	○	
		令和3決算において単年度黒字である。	○	
		令和3決算において減価償却前黒字である。	○	
	5	累積欠損金がない。		○
	6	累積欠損金があるが、対自己資本比率は50%未満である。 ※この設問は、前の問で「いいえ」と答えた場合のみ回答してください。		○
	7	累積欠損金があるが、対自己資本比率は50%～100%である。 ※この設問は、前の問で「いいえ」と答えた場合のみ回答してください。	○	
合計			5	5

・評価コメント

財務状況についてについて総括的に評価し、課題が生じている場合、その解決のためにどのような方策を講じるかについて記載してください。また、法人に対する所管課としての関与のあり方について記載してください。

出資法人	<p>[現状と課題]</p> <p>平成10年の開設から数年間は経営状況は順調であったが、平成17年以降は一部の年度を除き赤字決算となり厳しい経営環境が続き資本金を取り崩して経営を存続してきたところである。しかし、抜本的な改善に至らず資本金が枯渇したことから、平成29年に経営改善計画を作成し、市から指定管理料を受けて経営を存続してきた状況である。そしてその状態に加え新型コロナウイルス感染症により1室あたりの宿泊人数の減少、郷土食の席数の減少など感染症対策などによるキャパシティの減少で売上減となっている状況であります。又、施設の故障、水道光熱費、材料費の高騰は更に経営を圧迫している状況であります。</p> <p>コロナウイルス感染拡大による全国的な日帰り宴会、及び宿泊宴会の減少は当施設も例外ではなく大幅な売上回復はまだまだ難しい状況であると推測されます。そういった中でも昨年取り組んでまいりましたクアハウスの市民割り、きんりん割り、郷土食の週替わりメニュー、産直部門の出展者の新規獲得など成果がでていきますので、これからも継続して行い、更に魅力的な事業内容・施設となれるよう取り組んで参りたいと考えております。</p>
所管課	<p>[評価及び関与のあり方]</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響による市況の悪化を受け、令和2年度に引き続き令和3年度も令和元年度に対して、売上は減少している。令和4年度においてもコロナウイルス感染症の終息が見込めないため、大幅な売上回復が困難ではあるが、クアハウス部門での盛岡市民割や近隣割、郷土食部門での週替わりメニューの定着化、産直部門での出展者の新規獲得などの取り組みにより、悪化を食い止める努力が窺える。</p> <p>この姿勢について、今後も継続して取り組んでいけるよう指導していく。</p>

(5) 活動成果

項目	番号	質問	チェック欄	
			はい	いいえ
1 成果指標	1	各業務について、成果指標が数値で具体的に設定されている。	○	
	2	法人の設立目的と連動した指標となっている。	○	
	3	事業ごとに数値目標を設定している。	○	
	4	指標や目標は、類似の事業を行う他の団体(他の地方自治体の出資等法人など類似団体、民間企業、非営利団体等)の動向を踏まえて設定したものである。	○	
2 活動成果の評価と公表	5	主要な成果指標について良好な水準を保っている、または改善の傾向にある。	○	
	6	成果指標の達成度について定期的に検証が行われている。	○	
	7	法人の活動成果について、外部委員等による定期的な点検・評価が行われている。	○	
	8	活動成果をホームページ等の媒体を使って住民に公開している。		○
合計			7	1

・評価コメント

活動成果について総括的に評価し、課題が生じている場合、その解決のためにどのような方策を講じるかについて記載してください。また、法人に対する所管課としての関与のあり方について記載してください。

出資法人	<p>[現状と課題] 組織の情報共有の為に定例ミーティングは今年度も継続しており、情報の共有は勿論の事、売上状況の把握、又問題点の解決に迅速な意思決定となっております。そしてその内容を議事録として従業員に配布することにより、タイムラグがない情報伝達となるよう努めております。従業員は個々それぞれ高いモチベーションの基、しっかりと業務に励んでいて、時に一人二役をこなしておりますが、慢性的な人員不足の解消はされておらず、不安材料の一つであります。経費においては燃料費及び資材費の高騰が大きな問題となっており、特に燃料費は令和元年度の単価より115%位上昇している状況です。</p> <p>[方策] 定例会議の継続を図ることで個々の意識を高め、これからも迅速な問題解決、改善へと繋げていきたいと考えております。経営コストは無駄なもの、効果がでないものは削減していきたく考えております。しかし前提はあくまでも売上増であり、顧客満足度を高め、社員が誇りを持って働ける環境を作り、地域の活性化を図るとともに市民の保健及び休養と交流の場を作る事に邁進して参りたいと思っております。</p>
所管課	<p>[評価及び関与のあり方] 前期比で確実に純利益の改善は進んでいる。新規の取り組みについても定例会議で掘り下げた内容が、実際に実行されており、経営管理が機能していると評価できる、財務などの定量的な数字で結果を出すためには、既存事業・業務の見直しは不可欠であり、そのためにはまず情報共有が社内で十分に図られることが肝要であり、今後も、部門間や職員間の垣根を超えて、一丸となって経営に取り組む姿勢を維持していただきたい。</p>

(6) 経営内容に関するその他の特記事項

出資法人

利用料金制を導入してオープンしたユートランド姫神は開業から25年を迎えておりますが、その間玉山地域の人口が2割強減少するなど近隣市町も同様の状況で、周辺人口の減少は経営に大きく負の影響として表れております。又平成29年に大規模改修をしたものの、コロナウィルス感染の前であることから密着、密回避の観点からはその用途性が制限されてしまうものがある事、未改修の機械設備や構造物の老朽化が進行しており、予算外の修繕が発生しているのが現状であります。このような状況下の中ではありますが、経営管理の仕組み、売上の拡大、人材力と組織力の向上など各般の改革に取り組み、将来に渡り持続可能な経営体へと転換を目指していききたいと思います。

3 市による総合評価

施設の老朽化について、建物本体や設備の修繕・更新が十分に実施できていないことから、施設運営に支障が発生しないよう対応して参りたい。

財務状況について、令和2年度は新型コロナウイルス感染症流行の影響で売り上げが大きく減少した。令和3年度においても感染症流行の終息が見込めない中ではあるが新規顧客の取り込み、具体的には空室があった食工房へのジェラート工房の入居、登山客の誘客効果を狙った姫神山山バッジの販売、仕出し弁当の受注等を行った。また、産直施設の経営戦略を見直し売場のリニューアルを行ったり新規出品者の募集を行うなど、財務の改善に向けて工夫を凝らしていく取組は評価している。

市としては、市民の同意に基づく必要な財政的支援と情報提供や、担当課による法人の指導を引き続き継続して参りたい。